○たがやさんトハ何ゾ

理學博士 三 好 學

Miyoshi, M.: — What is "Tagayasan"?

我邦ニテ從來使用スル唐木中たがやさんハ鐵刀木トモ稱シ、古書ナドニハ往々圖解セルモノアレドモ、其學名ハ今マデ分明ナラズシテ、或ハ之ヲ金絲桃科ノ樹木タルメスア、フエア (*Mesua ferrea*, L.) トナシ、又ハ心材ノ外觀稍、椰子類ニ似タルヨリ同類ノ一ト見做サレタルコトナキニ非ズ、然レドモ仔細ニ其組織ヲ檢スレバ、椰子類ニ非ザルハ勿論、又メスア、フエアニモ非ズ、蓋シ後者ハ材質一様緻密ニシテ甚堅ク、赤褐色ヲ帶ブルヲ以テ特徴トナス、

予ハ去ル明治四十年印度、瓜哇地方へ旅行シタル際、研究用トシテ種々ノ熱帶樹木ノ材質ヲ持チ歸レルガ、此中ニハ多少たがやさんノ材質ニ類似シタルモノナキニ非ザルモ、全ク同一種ト見做スベキモノナク、又他ニ參考スベキ材料ヲ缺ケルニヨリ、曩ニたがやさんノ一小片ヲ錫蘭島ペラデニア植物園次長ロック氏へ送り、同園所藏ノ熱帶木材標本中之ト類似セルモノ、有無ヲ尋ネタルニ、後ロック氏ハ予ノ送致セル標品ガ該園ノ標本中ノ荳科ノ一種カシア、シアメア (*Cassia siamea*, Lamk.) ト外觀酷似シ、之ト同種ニ屬スルモノナラント言ヒ來レリ、依テ予ハ更ラニ同氏ニ乞ヒテカシア、シアメアノ材鑑ヲ得、又比較材料トシテ瓜哇ボイトンゾルグ植物園、佛領安南西貢植物園、新嘉坡植物園等へ依頼シテ同樹ノ材并ニ花葉ノ標本ヲモ得、是等ノ材料ニ就テ十分ニ比較センコトヲ企テタリ、予ノ調査ハ尙未完結セザレドモ、今マデニ檢定シタル所ニヨレバたがやさんハ前述ノカシア、シアメアタルコト疑ナクシテ明ニ荳科ノ材質ノ特徴ノ存在スルヲ認ムベシ、但シ予ノ各處ヨリ得タル標品并ニ東京市中ノ唐木商ヨリ求メタル標品ヲ一々比較スレバ、其間ニ多少ノ差異ナクンバアラズ、即チ心材ノ色ノ濃淡、特ニ稍、黃褐色ヲ呈スルモノト、固有ノ暗褐黑色ヲ呈スルモノトアリ、又心材ノ透心縦斷面ニ於テ漆黑色ノ不規則ナル斑點又ハ斑條ノ極メテ分明ナルモノ (瓜哇ノ標品)、稍、分明ナルモノ (錫蘭ノ標品)、甚不分明ナルモノ (西貢ノ標品、及ビ本邦ニテ

○たがやさんトハ何ゾ 三好

得タル或ル標品)トアリ、西貢ノ標品ハ樹齡約ソ十五年ヲ經タルモノニシテ、横斷面ノ最大直径二十仙迷、皮層ノ厚サ四密迷、白材ノ最大ノ厚サ五・五仙迷、心材ノ最大全徑十五仙迷ナリ、瓜哇ノ標品ハ横斷面ノ最大直径、九仙迷、皮層ノ厚サ四密迷、白材ノ最大ノ厚サ二・五仙迷、心材ノ最大直径四仙迷ナリ、

今以上ノ標品ニ於ケル一々ノ差異ニ涉ルヲ止メ、茲ニ是等ノ標品ノ一般共通ノ特徴ヲ擧グレバ左ノ如シ、樹皮ハ灰黑色又ハ灰褐色ニシテ、全面ニ少凹凸ヲ具ヘ粗糙ナルコトかし、くす等ニ於ケルガ如シ、初成皮層ノ發達尋常ニシテ、其質甚硬シ、

材質ハ白材比較的ニ多ク、心材割合ニ少シ、横斷面ニ於ケル中心點ハ一方ニ偏在スルヲ見ルベシ、白材、心材ヲ透シテ全面ニ無數ノ斷續セル不規則ノ波狀斑紋アリテ、長サ一密迷乃至五密迷ナルモ、時トシテハ更ラニ之レヨリモ長ク連ナレルコトアリ、厚サハ○・二密迷乃至○・五密迷ニ達ス、此波狀斑紋ハたがやさんノ材質ニ固有ノ觀ヲ呈セシムルモノニシテ、透心縱斷面ニ於テハ竝行セル緻密ノ細線トナリテ現ハレ、接線縱斷面ニ於テハ蚊摺形、雲紋形、矢筈形等トナリテ見ユ、凡ベテ是等ノ波狀斑紋ハ中心點ノ周圍ヨリシテ外圍ニ向テ重圈狀ニ排列シ、無數ノ輪ヲ形成ス、白材部ニアリテハ淡キ黃褐色ヲ呈スレドモ、心材部ニアリテハ黑褐色又ハ暗黃褐色ナリ、波狀斑紋ノ中間ノ部分ハ白材部ニテハ帶黃白色ナレドモ、心材部ニテハ稍、暗色トナレリ、又全面ニハ明ニ肉眼ニテ認メ得ベキ無數ノ小孔アリテ、其大サ針尖ニテ穿ガテル孔口ニ彷彿タリ、其位置ハ亂雜ナラズシテ自ラ波狀斑紋ノ一側ニ沿ヒテ存在スルヲ見ルベシ、

以上ハ肉眼ノ所觀ナルガ、茲ニ顯微鏡下ノ所觀中精細ノ點ヲ除キ、一般ノ構造ヲ記スレバ左ノ如シ、(主トシテ横斷面ニ依ル)、

木質部ハ木質纖維ト木質柔組織ヨリ成リ、此外ニ大ナル有孔導管アリ、後者ハ一定ノ部位ニ存在シ、木質纖維中ニアレドモ、尙木質柔組織中ニ入り込ミ、其周圍ハ特ニ木質柔細胞ニテ包圍セラル、肉眼ニテ見ユル數多ノ細孔ハ即此有孔導管ナリ、

木質纖維ハ心材部ニ在テハ膜壁黑色ヲ帶ブレドモ、白材部ニアリテハ然ラズ、通常ノ木材ニ於ケルガ如ク一帯ノ重
 圓ヲ形ヅクラズシテ、薄キ小群束ヲ成スノ特徵アリ、前ニ記セル波狀斑紋ハ即チ木質纖維ニ外ナラズ、木質柔組織
 ハ肉眼ニテ淡色ニ見ユル部分ニシテ木質纖維ノ波狀群束ノ間ヲ占メ、發達甚盛ナリ、蓋シ木質柔組織ガ斯カル異常
 ノ發生ヲ遂ゲタルハ此材ノ特徵ニシテ、他ニ其例ナキニ非ザレドモ、本種ニ於テハ最著ルシ、木質柔組織ノ細胞ハ
 膜壁ニ孔紋ヲ有シ、細胞頗ル大キク長方形ヲ成ス、細胞内ニハ澱粉又ハ他ノ貯藏養分ヲ見ズ、

材ノ中心點ヨリ外方ニ向テ數多ノ射出髓アリ、是レ肉眼ニテハ不分明ナレドモ、顯微鏡下ニ於テハ一二列乃至六七
 列ノ細胞トナリテ現ハレ、固有ノ構造ヲ示セリ、

前ニ記セルたがやさんノ材質標本中、心材部ニ漆黑色ノ斑點及ビ斑條ヲ具フルモノニテハ、該斑紋部ハ射出髓、木
 質纖維及ビ木質柔組織ニ涉リ、何レモ細胞膜及ビ細胞内容ノ黑色ニ變ゼルヲ認ムベシ、

東京帝國大學醫科大學藥物學教室ノ林教授ガ予ニ示サレタルたがやさんノ心材ニハ場所ニヨリテ割目ニ黃色ノ物質
 ヲ含ムモノアリテ、肉眼ニテモ見ルヲ得ベク、鏡檢スレバ、該物質ハ木質柔細胞内ニ存在シ、又有孔導管内ニ出デ
 來リテ之ヲ填充セルモノアリ、予ノ今回熱帶ヨリ得タル標品ニ於テハ未明瞭ニ同様ノ物質ヲ認ムル能ハズシテ、導
 管内ハ赤褐色ノ含有物ヲ以テ填充サレタルヲ見ル、東京唐木商ヨリ予ノ得タルたがやさんノ標本ニ於テモ單ニ斯カ
 ル赤褐色含有物ノミ存在スルヲ認メタリ、是レ蓋シ材質ノ年齡ニ由ルカ、將タ個體的又ハ變種の差異ニ基ヅクヤ、
 或ハ病的(特ニ創傷刺戟ニ由レル)現象ナルヤ更ラニ攻究ヲ要スベシ、該黃色物質ノ毒物學的性質ニ就テハ岩川醫學
 士ガ目下林教授ノ實驗室ニ於テ研究ニ從事セラル、ト云フ、

カシア、シアメアハ一ニカシア、フロリダ(*Cassia florida*, VAHL.)トモ云ヒ、ビルマニテハ「メザリ」ト云ヒ、又
 他國ニテハ「カラン、コンナイ」、「バランプ、コンナイ」、「シマタンゲヅ」等ノ俗稱アリ、蓋シビルマ地方ノ自生ナ
 ルモ、又印度ノ西南部ニモ産シ、而シテ錫崙、馬來地方、シヤム、安南等ヲ通ジテ汎ク栽培セラレ、濕熱ノ土地ニ
 良ク生長ス、

○たがやさんトハ何ゾ 三好

ブランドス氏ノ『印度樹木志』(BRANDIS, Indian Trees. p. 254.) 及ビ其他ノ熱帶植物志ニハ此樹ノ形狀ヲ記シ、又トループ氏ノ『印度ノ樹木及ビ功用』(THOUR, Indian Woods and their Uses. 1909. p. 106.) ニハ此樹ノ材質ノ特性ト用途トヲ記セリ、

茲ニ前記ノ標品ヲ予ニ送ラレタル、ロック氏、モラージ氏、「ドクトル」リドレー氏并ニトレープ教授ニ其厚意ヲ謝ス、

正 誤

○本卷第二百八十號(138)下段右ヨリ五行目

『支那及日本產薔薇屬』ハ『支那及日本產きいちご屬』ノ誤

○本卷第二百八十四號(289)文部省植物科教員檢定豫備試驗問題 十二番ノ上ニツキタル×ハ十三番ノ上ニ

ツクベキモノ、誤